

# 出土遺物を撮る

## 発掘新聞

3月9日号

平成25年復活第6号

編集・発行

九州歴史資料館

電話 0942-75-9575



米を蒸した容器である、古墳時代前期の甑（こしき）を4個並べて取ったカット、1個を横にし、底に開けられた蒸気を通る孔が見えるようにし、甑の機能と形をよく示したカット（福岡市西新町遺跡出土品）

出土遺物の性格を示しつつ、いかに分  
かりやすくセンスのある写真を撮るか  
当館写真室、北岡伸一整理指導員が撮影に挑む

当館が県内各地で行う発掘調査で出土した土器・石器などの遺物は、当館に持ち帰り、洗浄・注記・展開・復元・拓本・写真・実測・製図などの遺物整理作業が行われる。その様子のほとんどは、当館の中庭から見学することができるが、遺物写真撮影だけは部屋を暗くしなければならぬため、見る事ができない。この遺物写真撮影今号ではリポートする。

写真室は特別収蔵庫があるエリアの一角にあり、ストロボの光を吸収するために全体を黒塗りされた撮影室と奥にフィルムを現像するための暗室の二部屋からなる。この撮影は当館で20年以上出土文化財の写真撮影を専門に行っている、北岡伸一整理指導員が担当している。

遺物の写真撮影は、土器ならば基本は横から撮影し、平たい石器などは真上からの俯瞰撮影を行っている。横からの撮影では、後ろから光を当てた、半透明の撮影台の中央に土器を置く。撮影する土器はおもみや粘土などで倒れないように固定し、前方からストロボの光を当てて、できるだけ土器の影が目立たないようにして撮影している。昨年度までは、大型フィルムカメラでも撮影していたが、今年度からは



出土遺物の写真撮影を行う北岡整理指導員（昨年度、フィルムカメラによる最後の出土品の撮影）

高解像度のデジタルカメラで撮影している。北岡整理指導員が撮影する写真は、土器の形や文様をはっきり写すことはもちろんだが、少し影を付けることで立体的になっている。

また遺跡の性格をよく示す特徴的な遺物は、調査報告書の巻頭にカラーで掲載するが、ここが北岡整理指導員の腕の見せどころである。上の写真の撮影では、遺物の奥行き感、左右の余白などの配置にこだわり、また遺物の性格が良く分かるように一個を横に置き、蒸す容器であるということが分かるようにした。

このように苦労して撮影した写真の数々を掲載した調査報告書は、当館図書室にて閲覧できます。是非ご覧ください。

（大庭孝夫記者）